



学校だより 10月号

【学校教育目標】「力を合わせ 笑顔が光る日限の子」

令和4年9月30日

横浜市立日限山小学校

〒233-0015

港南区日限山二丁目16番1

TEL 045(841)6561

目標達成！ そのために・・・

副校長 武石 博行

夏休み前の出来事になりますが、生活科の学習で育てている夏野菜を2年生が観察している場面に出会いました。一人の子に何の野菜を選んだのかを聞いてみると、「ミニトマトだよ。」と教えてくれました。「ミニトマトが好きなんだね。」と尋ねると、「嫌いな。嫌いだから選んだの。」と、意外な答えが返ってきました。理由を聞くと、「自分が育てた野菜ならがんばって食べられるかもしれないから。」とのことでした。その子はきっと、「ミニトマトを食べられるようになりたい。」という目標を立てて野菜を育てていたのかもしれない。

このように、子どもたちの学校生活では、毎時間の学習をはじめ、学級目標や学年目標、遠足や運動会の行事など、様々な場面で目標を立てて学習や活動に取り組んでいます。

目標を立てるとき、「運動会のダンスをカッコよく踊りたい。」や「漢字テストで90点以上取りたい。」など、「なりたい自分」や結果をイメージします。しかし、この目標はゴールした時点の姿であって、ゴールするまでに何をがんばればよいのか、どんなことを意識すればよいのかなど、実際の行動につなげることはできません。目標を立てるときは、「運動会のダンスをカッコよく踊りたい。そのために、指先までピンと伸ばすことを意識して練習する。」や「漢字テストで90点以上取りたい。そのために、毎日〇ページずつ練習をする。」など、目標を達成するために何をするのかの具体的な取組も一緒に考える必要があります。

この具体的な取組を考えているかどうかで、振り返りの内容も変わってくると思います。「漢字テストで90点以上取りたい。」の目標だけでは、振り返りは「90点以上取れた。」「90点に届かなかった。」のように、できたかできなかったかの結果のみになりがちです。しかし、目標達成に向けて自分のやるべきことが明確になっていけば、「指先まで伸びているかを友だちに見てもらって、合格がもらえたので自信がついた。」や「漢字一文字の練習だけだとすぐに忘れちゃうけど、言葉や文章で練習したら覚えられた。」など、振り返りの内容も目標に向けて取り組んだ過程に目を向けることができます。この過程にこそ、子どもたちにとって大切な価値が詰め込まれている気がします。たとえ結果として目標に届かなかったとしても、成功したことや失敗したこと、自分で考えて改善したことなどが子どもたちの成長につながるのではないかと考えます。

さて、10月は学校生活において一年間の折り返しとなる月です。前期に取り組んだことやできるようになったことを振り返るとともに、次の学年に向けてもっと成長するために何をがんばりたいか、どんな力を伸ばしていきたいかなどの目標を立てるよい機会となります。その際は、自分に合った目標とともに、「そのために・・・」を付け加えて、目標を達成するための具体的な取組も見つけてほしいと思います。

私の後期の目標は、「笑顔を大切にしながら、明るい気持ちで過ごしたい」です。そのために・・・